

第59回関東算数・数学教育 研究大会栃木県(宇都宮)大会 参加報告

千葉県立沼南高等学校 清水 達夫

10月22日(金)、栃木県宇都宮市の宇都宮文化会館及び宇都宮高等学校を会場として行われた、第59回関東算数・数学教育研究大会栃木県(宇都宮)大会に参加してきました。今大会は「ともに学ぶ算数・数学教育の創造」を主題として開催されました。全体会・記念講演、公開授業及び分科会の様子について、簡単に報告いたします。

開会行事(9:00~9:30)

開会宣言

栃木県数学教育会副会長 五味田 謙一
実行委員長挨拶

栃木県数学教育会会長 木村 寛
「子ども同士、子どもと大人、大人同士集うあらゆる場において、ともにじっくりと数学する学びの機会を広げ充実させていきたい。」
来賓祝辞

長野県算数数学教育研究会会長 松林 大
「評論家は学力低下などの教育問題の原因をすべて現場の教員の責任にするが、果たしてそうなのだろうか。教育改革も、いい加減「ことばあそび」をやめて、どうすればよいのか具体的なところまでをきちんと示す必要があるのではないか。」

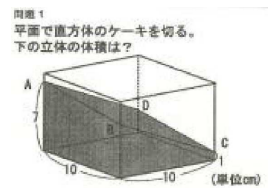
記念行事(9:30~10:35)

講演「算数・数学におけるイメージの活用」

埼玉大学経済学部教授 岡部 恒治

「イメージによって、問題を一般化していくことのおもしろさや大切さを、もっと子どもに教えていくことを取り入れていってほしい。」ということを主題に、いくつかの具体的な問題(錐の体積を求める方法など)を題材に講演をされていました。

ユーモアを交えた岡部先生のご講演に、興味を持って拝聴することができました。



公開授業(11:30~12:20)

栃木県立宇都宮高等学校

栃木県下屈指の進学校らしく、1年生から3年生まで、演習問題の解法を中心とした、無駄のない授業展開でした。2年生では、「数学C」を履修しているのには驚きました。3年生では、4クラスを5つに分割して習熟度別の「数学演習」の授業を行っていました。生徒が分担された問題の解答をスラスラと板書していましたが、その解説を生徒にさせずに、教師がやっちゃっているのが残念でした。

分科会(13:20~16:30)

14の分科会に分かれて実施された分科会では、生徒の興味・関心を引き出す工夫を凝らした教材研究から、新しい教育課題への取組(教育課程、数学的活動、評価など)やコンピュータの活用方法など、本大会の主題に沿った、興味のある提案がたくさんありました。なお、千葉県からは、次の2つの提案がなされました。

・学習指導における評価の在り方と工夫

県立松戸南高等学校 千葉 和也先生

・各高等学校における数学I・Aの履修及び評価の状況等に関する調査について

千高教研数学部会研究委員会

今回の関東大会(全国大会を兼ねて実施)は、来夏(8/1~8/6)に長野県で実施されます。是非、先生方の日頃の授業実践や研究成果などを、他県の先生方にも還元してみてください。